

CATVの地域情報

佐賀シティビジョン株式会社

取締役 営業推進部兼総務部 部長

森脇 康次

地域の現状

- ◆ 佐賀は民放が1局しかなく、地域情報が希薄になりがちである（通常民放は5局）
 - 単純に考えても1/5の情報しかない。
 - ◆ 新聞においても、福岡の情報が中心、ラジオにおいても、福岡、長崎中心であり、佐賀の情報は少ない。
 - ◆ 経済圏的にも福岡であり、ストロー減少により、福岡に吸い取られている。
 - ◆ 佐賀の地域の情報発信は新聞やインターネットでの情報発信。
 - ◆ 身近な情報の入手方法が少なく、噂や偏った情報がはびこり易い。（風評被害）
 - ◆ 佐賀の税金で育った子供たちが、地元ではなく都市部へ流失してしまっている。
- ⇒その結果
- ◆ 佐賀のアイデンティティーは希薄化し、郷土愛は育ちにくい状況。
 - ◆ 福岡への通勤圏となり、佐賀独自の文化やフィロソフィー等はよそ者文化に飲み込まれてしまう。
 - ◆ 佐賀の地元の人々が何を考え、何を問題としているのか、どのような町になって欲しいかの要望もまとめ、具体化するための問題提起を行える情報発信が必要不可欠ではないか？

CATVの役割

- ◆ もともとは難視聴対策として発生したCATV
- ◆ 難視聴対策
 - 区域外再送信（県外波）
- ◆ デイバイトエリアの為、地域情報の発信基地として自主放送を開始。
 - 地域の情報を発信することで、プレゼンスがアップ。地域のメディアとして情報発信することで、加入者を増やしてきた。
 - 自主放送の内容がCATVの存在意義そのものとなっている。
- ◆ その後、多チャンネル放送、インターネットサービス、電話サービスを開始。（付加サービスの拡大）
 - 付加サービスについては、代替事業者が存在
 - 付加サービスの成功により、地域情報の発信については？
 - もう一度見直す必要が？ → お客様が求める情報は？ → 原点回帰

情報発信について

◆ 全国情報

- N H K, 民放キー局、インターネット等

◆ 地域情報

- 市町単位→C A T V、タウン誌等
- 県域情報→N H K 支局、民放（佐賀は1局）、佐賀新聞
 - 県域情報が希薄→単局では、取組めないイベントを共同制作
 - 水平提携により、お役に立てないか？
↓
 - 佐賀デジタルネットワークを設立
 - C A T Vのデジタル化を機会に、共同H E 会社を設立
 - 県域情報への取り組みを活発化

SDN

◆ 設立目的

- C A T Vのデジタル化のコストを軽減させる為に、共同H E会社を設立し、県内のC A T V局のマルチセンターとして、全県に地上波、B S、C S、自主放送を配信。県域ネットワークを再構築。（スター型→ループ）

◆ 配信コンテンツ（県民チャンネル）

- 県議会中継、高校野球予選、インターハイ県予選、市郡対抗駅伝、各地のお祭り中継
- 単局では、対応できないイベントを共同制作にて配信
- 佐賀総体の際には、27競技29種目の準決勝以上の試合を放映→J G N I Iラインを活用し、岩見沢市役所、熊本県庁へも配信。C A T V局では、岩手、宮城、福岡、長崎、熊本、鹿児島、宮崎、大分の局社内に配信。又、期間中の23日間、午後7時30分より30分間の生放送で「特ホウ！佐賀総体！」という番組を放映し、県内の選手の活躍及び高校生の「一人一役」運動の活躍を放送。



◆ C A T Vでは各地区で県域ネットワークが構築されている。

- 佐賀と長崎は接続済みで、コンテンツの交流を開始（地域民放を越える視聴世帯）
 - 長崎くんち、佐賀バルーンフェスタはH Dで生放送。
 - 唐津くんち、ガタリンピックも生放送
- 今後、道州制をにらみ北部九州でのネットワーク構築ができれば？
- C A T V連盟では、A J C - n e t 構想がある。
- 多チャンネルの配信は、衛星経由からH O Gへ（インターネットのバックボーンとの関係）



◆ 単局では取り組みにくい新規技術への対応

- W i m a x 佐賀県との共同実験→佐賀県では4局が免許を取得（九州で5局のみ）

◆ 単局での取組み（ぶんぶんテレビ）

- 地域情報メディアとのコラボレーション
- 佐賀新聞ニュース、N B Cラジオとの番組乗り入れ、タウン情報佐賀との番組乗り入れ

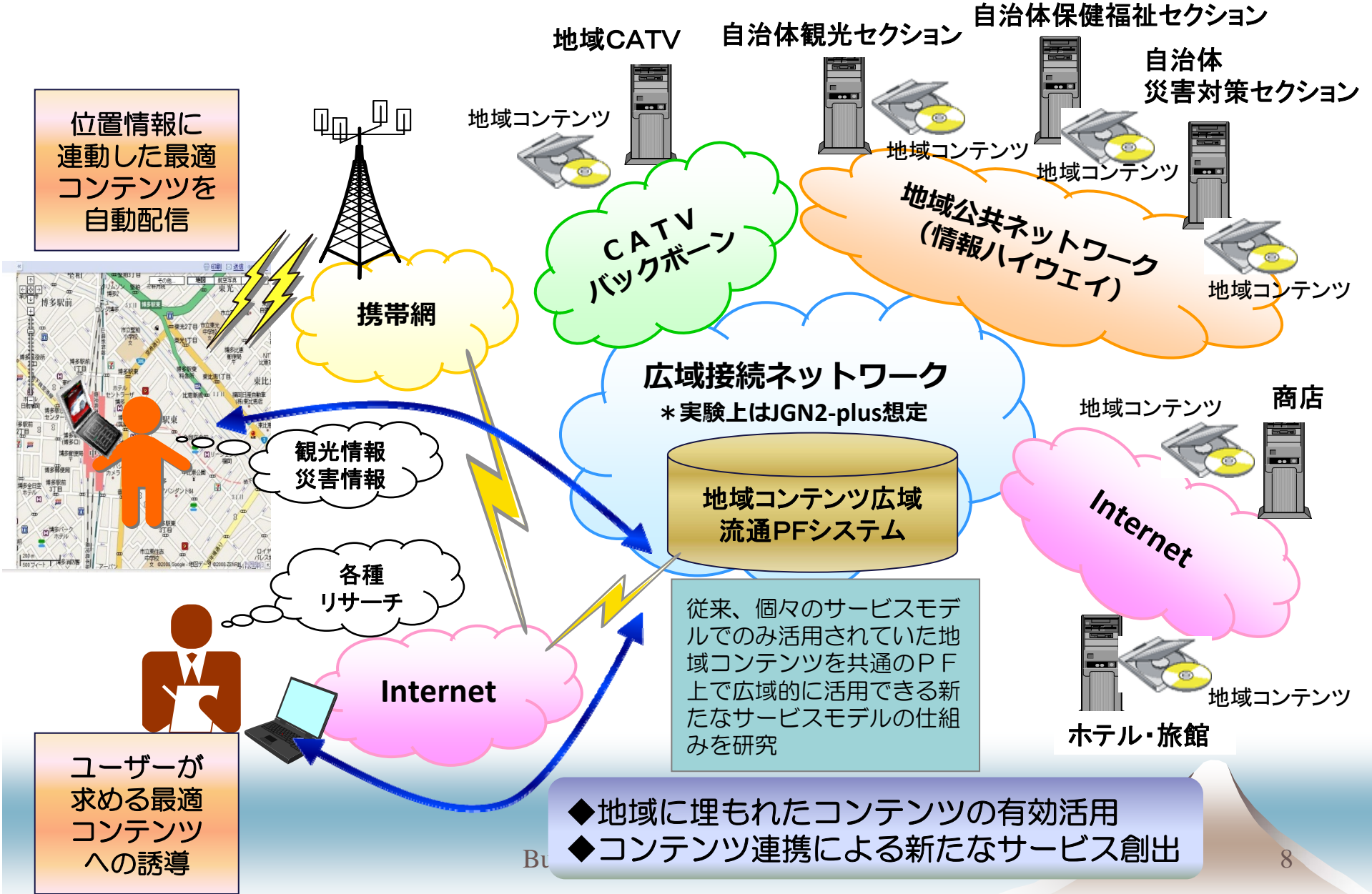
中継でを使用した伝送形態

- ◆ 高校総体、市郡対抗駅伝
- ◆ 伝送形態
 - C A T V のぼり変調
 - 光伝送
 - 束ねっと
 - S m a r t T e l e c a s t e r + F o r m a
 - S m a r t T e l e c a s t e r + W i m a x
 - I P 伝送

既得地域情報の活用

- ◆ C A T Vのコンテンツは地域密着の情報
- ◆ (価値はあるのかないのか?)
 - 通常エリアの方に情報発信
 - 自主放送を中心に展開
 - T P Oにより、地域に埋もれた情報が役立つ事があるのでは?
 - E x : K D D I 研、K I A I、Net Comとの共同実験
 - 佐賀に来られた方にはバリューがあるのでは
 - 有名どころではない地元の人しか知らない情報
 - 検索では出てこない、いわゆる隠れた情報、通の情報
 - あたかも知人が、地元を紹介してくれるような情報を発信できないか?
 - ↓
 - 地域のクローズされた中に埋もれている情報をTPOにあわせることにより、その情報のバリューが上がる?
 - E x: 東京にいて佐賀のお店情報は要らないが、佐賀に出張で来た時にはありがたい情報になる?
 - CATVでは、既得の情報の再活用で、観光客誘致、街づくり、イメージアップに貢献できるのでは? →ほかのエリアにも拡がりをもてれば?

地域コンテンツ高度利活用調査研究



地域コンテンツ高度利活用調査研究（実証実験）

5月26日(火)佐賀市内で公開実験

- ◆「位置」と「時間」に応じた最適なコンテンツを携帯端末に自動配信
 - *ユーザーの好みに応じて配信コンテンツのジャンル（観光・食事等）を設定しておくことも可能
- ◆当該エリアに係る事故情報、災害情報等、緊急情報に関しても常に自動配信



ただの石碑、建物でも背景について良く知れば特別な物に見える

ローカル（地域）コンテンツならではの強み

Wimaxの取り組み

- ◆ 県内4局のCATVがBSを設置。県域ネットワークを活用し、センター機器は共有化。
→4局のエリアでは、どこの局の端末でも使用可能。
 - 中継（市郡対抗駅伝で使用）
 - IPカメラ
 - 見守りサービス
 - 観光案内
 - 防災
 - Skype

BMLの取り組み

- ◆ 気象ロボットのデータをデータ放送へ、農業情報の提供
 - 佐賀市
- ◆ フィールドサーバー+水位センサーによる、浸水状況の確認→注意報、通行止め、迂回路の案内、避難勧告→双方向による避難の報告
 - 佐賀県
- ◆ 各家庭のコルクボードの情報を全てデータ放送に落とせれば！
- ◆ PCを持たなくても、TVでネットと同じ情報提供する

有事の際の情報発信

◆ 新型インフルエンザ情報

- 自主放送
 - 取材作り込みがあるため、時間的には速報性には劣るが、映像によるわかりやすい情報提供。
- BMLデータ放送
 - 速報性を確保できる情報提供。行政HP上の最新情報をRSS機能を活用し、即座に各家庭のテレビに提供。
(365日24時間対応可能)
- テレビのブラウザーサービス
 - 双方向による、デイケア、福祉課、家族等へのリモコンボタンによるメール発信
- インターネット
 - オンデマンドで必要とする情報を収集、今回の情報発信はほとんどがHP上であった。
- Wimax
 - 屋外にいるユーザーに。